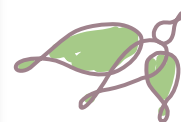


---

# 現場で働く指導医のための 医学教育学プログラム—基礎編

---



2022年度版ハンドブック

---

京都大学大学院医学研究科 医学教育・国際化推進センター

---



## 目次



● ご挨拶	02
● プログラムの概要と目的	03
● 本プログラムの思想・哲学	04
● 本プログラムが考える 「よい医学教育者」に求められる能力	05
● 医学教育学カリキュラム ユニット一覧	06
● 本プログラムにおける基本的な学習・教育法	08
● ラーニングマネジメントシステム 『PandA』について	08
● 受講生の声と授業風景	09
● 参加体験型授業・Web討論型授業 年間カレンダー	10
● 参加体験型授業・Web討論型授業 予定表	12
● 選択授業	17
● スタッフ紹介	18
● 受講生	22
● 導入編の紹介	23
● 応用編の紹介	24
● 募集要項	25



## ご挨拶



「現場で働く指導医のための医学教育学プログラム-基礎編 (FCME)」にようこそ。

医師は一生勉強することが大切だ、と言われます。複雑化、高度化する医療のなかで、医師は日々学習を続けています。この学習者を支援するのが教育者であり、医療では指導医が多くの役割を担っています。

私たちの医療は世界をリードしています。日本の医療の質をさらに高めていくためには人材育成が必須であり、そこにはよい教育の場が求められます。しかし、我が国の医学教育はまだ経験の踏襲から抜け出せていないところがあります。

医師として必要なコンピテンシーには、医療行為ができるだけでなく、プロフェッショナリズムやコミュニケーション能力、社会を基盤とした考えなども必要といわれます。これらに加えて、私たちは、教育力をもつことと組織でのリーダーシップ/マネジメント能力をもつことが優れた医師には必須だと考えています。

FCMEは、医学教育について腰を落ち着けて考え、学ぶ機会を作ります。このプログラムを修了すると、京都大学から履修証明書が発行されます。FCME が、わが国で医学教育を学び深めることの鎗矢となり、さらに発展していくことを祈っています。

京都大学医学教育・国際化推進センター 名誉教授  
プログラム監修

小西 靖彦



## プログラムの概要と目的



本邦には現在約30万人の医師がおり、そのほとんどがキャリアのどこかで教育に関わります。例えば大学で働く教員の先生は学生や院生の教育に、臨床研修病院で働く先生は初期研修医指導に、開業して診療所で働く先生は患者教育に。ただ医学部では「教える」ということについて学ぶ機会はほとんどありません。そうすると、どうしても「自分が教わった方法」で教えることになりがちなのですが、多くの先生がその「自分が教わった方法」でよいのだろうかと感じたまま、教育に関わっているという現状があります。

その意味で多様な教育方法を知って教育活動の幅を広げることは、非常に意義があります。また「なぜ教えるのか？」や「何を教えるべきなのか？」といった問いに対しても、医学教育学は一定の理論的枠組み（レンズ）を与えてくれます。本プログラムを受講される皆さんには、そのレンズを使って自分自身の教育を省察（振り返りともいいます）し、教育活動の幅を広げてもらいたいと思っています。

医学教育学の考え方の一つに「教え方に唯一解はない」というものがあります。別な言葉を使えば「Bestな教育は存在しない」という言い方もできます。学生や研修医の数、彼らのやる気、教える内容、自分の調子、部屋の温度など、様々なものに教育活動は影響を受けます。教育に関わる者はそのような状況を全て加味しながら、どのようにしたら自分が伝えたいと思っている内容を学んでもらえるのか、と問い続けるしかありません。その際に、本プログラムが提供するレンズが皆さんの視野を広げるという形で一助となることを心から願っています。


京都大学医学教育・国際化推進センター 特命教授  
名古屋大学総合医学教育センター 教授  
プログラム責任者

錦織 宏



1. 医療・教育の実践を通して他者貢献「感」を得る
2. 多様性を重視する（社会構成主義>実証主義）
3. 実証主義文化圏である医学と社会構成主義文化圏である教育学を適切に行き来する（プラグマティズム。適度に「よい～」について問う）
4. 自己省察・自己評価を重視する（可能な限り性善説）
5. 思考停止しない（なぜ？を問い続ける）
6. 現場での行動を重視する（行動する知識人である）
7. 対話と討論を重視し、アウトカムと同様にプロセスも重視する（教育のアウトカムを検証するには遠視眼的な視点が求められるので）
8. 医療・教育を「社会的共通資本」として捉え、暴走する新自由主義と正当に対峙する
9. 難しいことを簡単に伝える（決して、簡単なことを難しくしない）
10. 以上の思想・哲学を過度に他人に押し付けない



 本プログラムが考える  
「よい医学教育者」に求められる能力

前ページの思想・哲学を持って……

よい教育法を実践できる	教育と学習 Teaching and Learning	
よいカリキュラムを開発できる	カリキュラム開発 Curriculum Development	
よい評価法を計画・実施できる	学習者評価 Assessment	
組織を改革することができる	リーダーシップ・マネジメント Leadership and Management	
学ぶという行為について深く考えることができる	教育哲学 Philosophy	
Information Technology (IT) を用いた 学習環境を構築できる	情報工学 Information Technology	
異文化・他者を理解することができる	文化人類学 Cultural Anthropology	
医学教育研究を実施できる	医学教育研究 Research	
上記を統合できる	医学教育学総論 General	
その他	Others	





# 医学教育学カリキュラム ユニット一覧

## TL

### 教育と学習

#### Teaching and Learning

- TL1 小グループ学習のファシリテーション・反転授業 参1
- TL2 成人教育理論／成人学習理論 前W
- TL3 シミュレーション教育ことはじめ  
—デザインを考える 参2
- TL4 シミュレーション教育ことはじめ  
—デブリーフィングを考える 参2
- TL5 ベッドサイドティーチングと外来教育と  
William Osler 参2
- TL6 学生・研修医のメンタルサポート 後W
- TL7 シネメデュケーション  
—映像の持つ力とその教育への応用 参3
- TL8 PBL—理論的美しさと日本での実質的破綻 参3
- TL9 絵本と私
- TL10 TBL—教育資源を考えた  
インタラクティブティーチングの一例
- TL11 守破離という学び方と師匠・弟子関係
- TL12 カリスマ講師的講義法と予備校教育の現在
- TL13 スタディガイドと教科書  
—双方向性を書くということ
- TL14 よい指導医像  
—自身の教育スタイルを知って強みを生かす

## CD

### カリキュラム開発

#### Curriculum Development

- CD1 カリキュラムを作る・壊す  
—自由な学びの場の構築 前W
- CD2 カリキュラム評価と有名臨床研修病院の意味 後W
- CD3 インストラクショナル・デザインで斬る 参3
- CD4 インストラクショナル・デザインにおける構造化の  
功罪
- CD5 アウトカム基盤型医学教育と医学教育の  
ビジネスモデル
- CD6 必修と選択  
—最低限を設定して期待しすぎないということ
- CD7 多職種連携教育  
—専門家の意味を改めて問い、連携の構造を知る
- CD8 地域基盤型医学教育—理論と実践 後W
- CD9 認証評価と教育カリキュラム標準化の功罪

## A

### 学習者評価

#### Assessment

- A1 キャラに合わせたフィードバックと承認欲求 参1
- A2 ちゃんとした試験をすれば授業は要らない? 前W
- A3 診療現場での問主観的な評価  
—責任ある主観とポートフォリオ
- A4 合否判定基準と再試験の在り方 後W
- A5 評価者トレーニングとルーブリック 参3
- A6 EPA (Entrustable Professional Activity)  
と臨床教育
- A7 実技試験の強みと弱み  
—OSCEを計画して実施して (そして疲れる)
- A8 筆記試験 (Multiple Choice Questionなど)  
の作り方

## LM

### リーダーシップ・マネジメント

#### Leadership and Management

- LM1 組織マネジメント概論 参1
- LM2 経験学習とリーダーシップ開発 前W
- LM3 職場学習と変革マネジメント 後W

## PH

### 教育哲学

#### Philosophy

- PH1 医学教育における省察と構成主義  
—唯一解のない世界へようこそ 参1
- PH2 アンプロフェッショナルな行動  
態度の評価と教育 後W
- PH3 ジェダいの哲学とアンプロフェッショナル  
な行動への対応 後W
- PH4 人生と時間と学び-生涯教育とHolistic教育 後W
- PH5 医師のプロフェッショナリズムとアイデンティティ形成  
—武士道の視点から
- PH6 教育における権力  
—フォーコーとブルデューから読み解く
- PH7 古典に学ぶ医学教育



## IT

## 情報工学

## Information Technology

- IT1 Web討論型授業  
—本プログラムにおける実際を中心に 参1
- IT2 LMS (learning management system)  
のいろは 参2
- IT3 SNS/YouTube時代における  
プレゼンテーション技法
- IT4 電子ポートフォリオ
- IT5 Computer-based testの今とこれから

## CA

## 文化人類学

## Cultural Anthropology

- CA1 文化人類学と医学教育  
—医学教育の文化的社会的文脈 前W
- CA2 異分野の教育 (仮) 参2
- CA3 タイの医学教育
- CA4 シンガポールの医学教育
- CA5 インドネシアの医学教育
- CA6 アメリカの医学教育
- CA7 イギリスの医学教育
- CA8 台湾の医学教育
- CA9 医師患者関係の現在  
—社会が医師に求めるものは何か

## RE

## 医学教育研究

## Research

- RE1 医学教育を科学する  
—社会医学としての医学教育学とその研究 前W
- RE2 リサーチクエスチョンを立てる
- RE3 量的研究 (1)  
—アンケート調査の計画・実施とデータ分析
- RE4 量的研究 (2) —量的データの統計解析 (基本編)
- RE5 質的研究 (1) —SCATによる質的データ分析
- RE6 質的研究 (2) —エスノグラフィー入門
- RE7 質的研究 (3) —Delphi法とNominal Group法
- RE8 医学教育研究のStrategy  
—倫理審査・研究費・投稿雑誌
- RE9 Niigata Meeting (アジア太平洋医学教育研究ネット  
ワークによる国際リサーチミーティング: 日本医  
学教育学会と共催)

## GE

## 医学教育学総論

## General

- GE1 自己紹介と教育実践のプレゼンテーション 参1
- GE2 医学教育と医学教育学  
—現場至上主義と概念化することの意味 参1
- GE3 教育実践と中間振り返りの  
プレゼンテーション 参2
- GE4 Faculty Development 後W
- GE5 修了時プレゼンテーション 参3
- GE6 ティーチングポートフォリオと教育業績評価

## OT

## 選択

## Others

- OT1 同窓会企画
- OT2 日本の医学教育関連組織  
—どこで誰が何を決めているのか? 後W
- OT3 歴史上の医師と対話する 後W
- OT4 xx科の医学教育
- OT5 京都大学の歴史と学風
- OT6 医療漫画と医学教育
- OT7 実践者として研究をすること

## AM

他の団体が主催する企画で  
本プログラムの単位として認められるもの

## Academic Meeting

- AM100 日本医学教育学会大会 [4]
- AM101 岐阜大学MEDCの主催する  
セミナーとワークショップ [4]
- AM102 欧州医学教育学会 (AMEE) [8]
- AM103 アジア太平洋医学教育学会 (APMEC) [8]
- AM104 米国医学教育学会 (AAMC) [8]

※ [4] [8] の数字は授業時間を表します



## 本プログラムにおける基本的な学習・教育法

- 参加者は
- 事前に課題図書を読んでくる
  - 事前課題をやってくる（自分自身の経験を言語化しておく）
  - 当日は、他人の話をよく聞き、そして積極的に、自分自身の意を他人にわかるように伝える（＝討論する）
  - 知的に愉しく学ぶ
- 入れ子構造 「新しい教育方法」で「教育方法を学ぶ」という入れ子構造の中で様々な視点を持ち、深い学びへつなげる
- 対話を大事に 対話やコミュニケーションによって体験を振り返り言語化することで教育実績を見える化してゆく

## ラーニングマネジメントシステム『PandA』について

FCME（ふくみん）では、京都大学情報環境機構の提供する学習支援システム PandA (<https://panda.ecs.kyoto-u.ac.jp/portal>) を、電子ポートフォリオ／学習サポートシステムとして利用します。（PandAとはPeople and Academeの略称です。）

PandAでは、授業の資料や提出課題などをアップロードしたり、ダウンロードしたりできます。PandA上にアップロードされた情報は、すべて電子的に保存・蓄積されます。

FCMEに関するあらゆる情報（授業資料、発表資料、レポート、画像、動画、音声など）は、このPandA上にアップロードされ、必要に応じて、適宜、講師と受講生に配信・共有されます。

PandA上に、授業資料、発表資料、レポートなどを電子的に保存・蓄積することで、FCMEに関するWebベースの統合データベースを構築していく計画です。

FCMEで利用するシステムの使い方や機能などで、分からないことや困ったことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

## 受講生の声と授業風景



参加した12名が、卒前教育から卒後教育まで様々な悩みを抱えておられた。それを解決するために真摯に相談にのってくれるMentorと同期の仲間がいることが分かった。

WEBで初対面であったにも関わらず、受講生も活発に発言できた。その環境を整えて下さったことがよかった

皆さんの背景を少し想像できたのと、議論すべき課題が見えやすくなった点で、言語化することの重要性が感じられました。

それぞれの人となり伝わってきたこと。似たような悩み、全く新しい視点に出会えました。

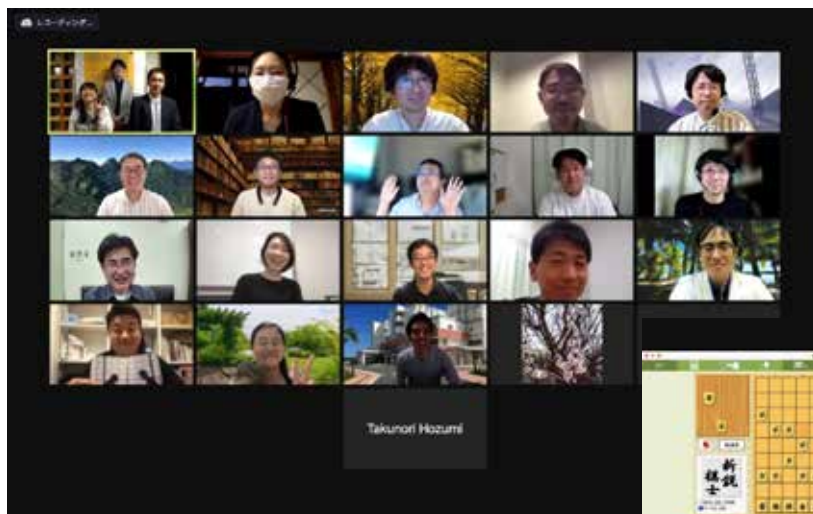


オンラインで発表するのは初めてで新鮮でした。

本編もちろんですが、チャットがとてもためになりました



### コロナ禍でもオンラインで体験型の授業を展開しています。

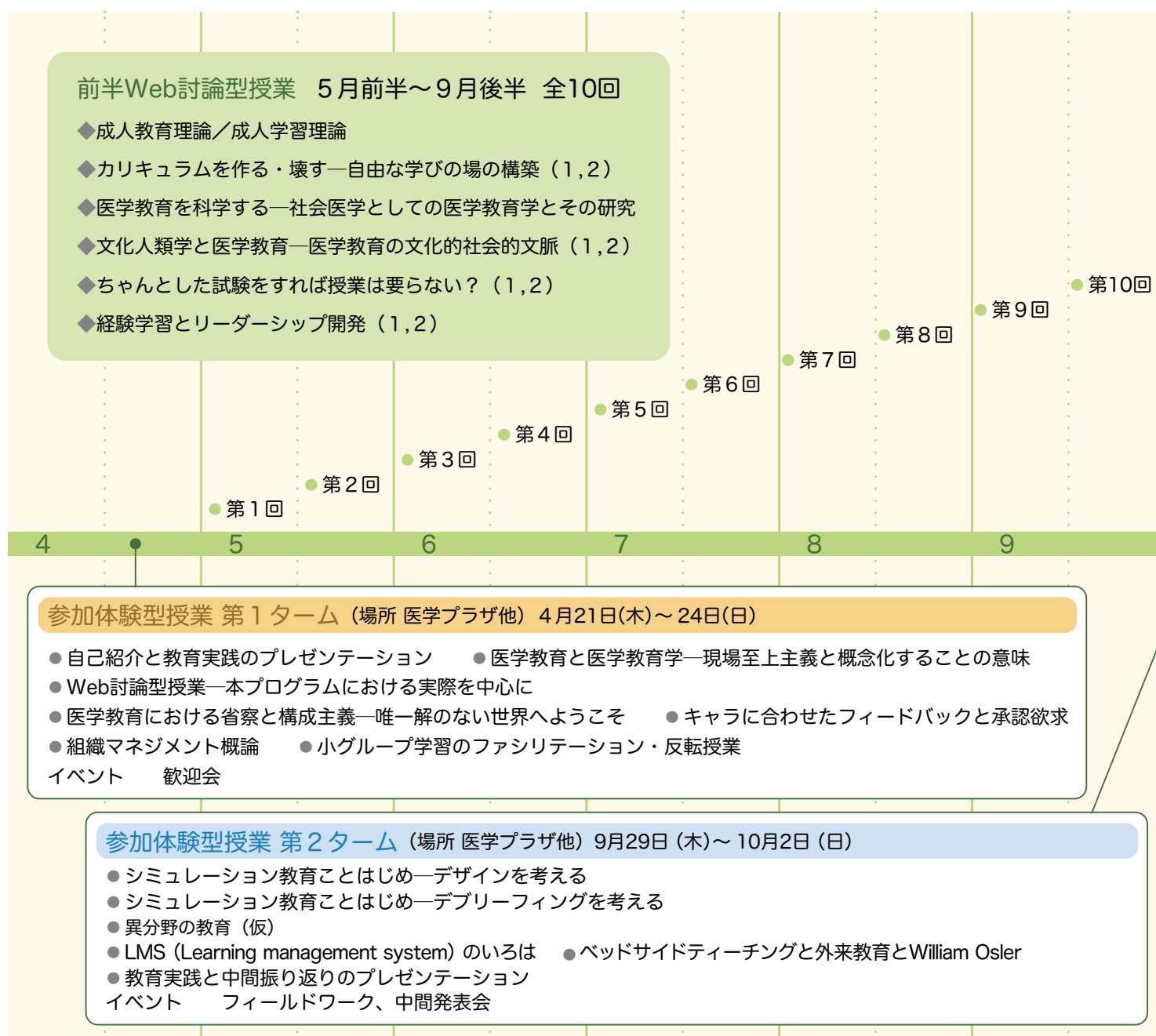


## 参加体験型授業について



- 年3回（1ターム4日間。木・金・土・日に開講）
- 第1ターム 4月21日（木）～4月24日（日）  
第2ターム 9月29日（木）～10月2日（日）  
第3ターム 3月9日（木）～3月12日（日）
- 京都大学医学部内医学プラザ他で行う予定ですが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって、webで行う場合があります。

## 年間カレンダー



- 月に2回（前半・後半）、1回2時間、原則講師2～3名と受講生6名で開催します。
- Web討議システムのテクニカルサポートが待機していますので、トラブル時にはご連絡ください。
- Web討議システムはZoom(<http://zoom.us/jp-jp/meetings.html>)を予定しています。こちらの会議番号もその都度提示いたしますのでその番号経由でアクセスしてください。なお、Zoomにシステム障害が発生した場合、代替手段としてWebex(<http://kucme.webex.com>)に切り替えることがあります。
- Web討議の間にご不明な点が発生した場合は以下のIP電話におかけください。  
 谷： - - - -  
 メールアドレスは [fcme-it@cme.med.kyoto-u.ac.jp](mailto:fcme-it@cme.med.kyoto-u.ac.jp) です。



4月21日（木）

8:30~10:30 | 開講式・事務連絡（全員） 自己紹介とオリエンテーション

10:45~15:45 | **GE1** 自己紹介と教育実践のプレゼンテーション（木村武／種村／錦織）（昼食）

16:00~18:15 | **GE2** 医学教育と医学教育学—現場至上主義と概念化することの意味（錦織）

19:30~ | 歓迎会

4月22日（金）

8:30~12:45 | **IT1** Web討論型授業—本プログラムにおける実際を中心に（谷／山本）  
（昼食）

14:00~18:15 | **PH1** 医学教育における省察と構成主義—唯一解のない世界へようこそ（種村／森下／木村武）

4月23日（土）

8:30~12:45 | **A1** キャラに合わせたフィードバックと承認欲求（木村武／佐野）  
（昼食）

14:00~18:15 | **LM1** 組織マネジメント概論（高尾／磯部／木村峻／山田／島袋）

4月24日（日）

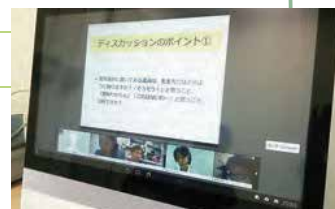
8:30~12:45 | **TL1** 小グループ学習のファシリテーション・反転授業（種村／染谷）

## 前半 Web討論型授業



※実施日は各グループにて調整

第1回	5月前半	月 日 ( ) : ~ :	TL2 成人教育理論／成人学習理論〈柴原〉
第2回	5月後半	月 日 ( ) : ~ :	CD1 カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場の構築 (1) 〈宮地由／松下〉
第3回	6月前半	月 日 ( ) : ~ :	CD1 カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場の構築 (2) 〈宮地由／松下〉
第4回	6月後半	月 日 ( ) : ~ :	RE1 医学教育を科学する—社会医学としての医学教育学とその研究〈菊川／錦織〉
第5回	7月前半	月 日 ( ) : ~ :	CA1 文化人類学と医学教育—医学教育の文化的社会的文脈 (1) 〈飯田／宮地純／梅村〉
第6回	7月後半	月 日 ( ) : ~ :	CA1 文化人類学と医学教育—医学教育の文化的社会的文脈 (2) 〈伊藤／宮地純／梅村〉
第7回	8月前半	月 日 ( ) : ~ :	A2 ちゃんとした試験をすれば授業は要らない? (1) 〈松山／斎藤〉
第8回	8月後半	月 日 ( ) : ~ :	A2 ちゃんとした試験をすれば授業は要らない? (2) 〈松山／斎藤〉
第9回	9月前半	月 日 ( ) : ~ :	LM2 経験学習とリーダーシップ開発 (1) 〈高尾／磯部／木村峻／山田／島袋〉
第10回	9月後半	月 日 ( ) : ~ :	LM2 経験学習とリーダーシップ開発 (2) 〈高尾／磯部／木村峻／山田／島袋〉



9月29日 (木)

8:30~12:45 | **TL3** シミュレーション教育ことはじめ—デザインを考える〈茂木/及川/田中/染谷〉  
(昼食)

14:00~18:15 | **TL4** シミュレーション教育ことはじめ  
—デブリーフィングを考える〈及川/田中/鉄原/染谷〉

9月30日 (金)

8:30~12:45 | **CA2** 異分野の教育 (仮)  
(昼食)

14:00~18:15 | **CA2** 異分野の教育 (仮)

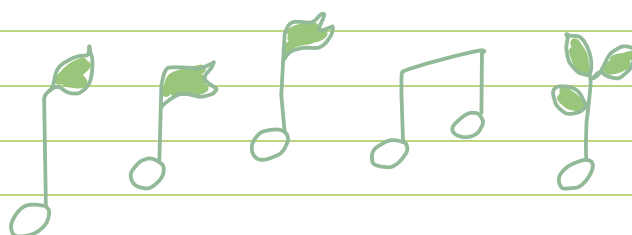
10月1日 (土)

8:30~12:45 | **IT2** LMS (Learning management system) のいろは 〈谷/梶田〉  
(昼食)

14:00~18:15 | **TL5** ベッドサイドティーチングと外来教育とWilliam Osler 〈鈴木富/木村武〉

10月2日 (日)

8:30~12:45 | **GE3** 教育実践と中間振り返りのプレゼンテーション 〈木村武/種村〉





## 後半 Web討論型授業

※実施日は各グループにて調整

第11回	10月前半	月 日 ( ) : ~ :	TL6 学生・研修医のメンタルサポート 〈植野〉
第12回	10月後半	月 日 ( ) : ~ :	OT2 日本の医学教育関連組織—どこでだれが何を決めているのか? 〈小西〉
第13回	11月前半	月 日 ( ) : ~ :	PH2 アンプロフェッショナルな行動・態度の評価と教育 〈木村武/錦織〉
第14回	11月後半	月 日 ( ) : ~ :	CD2 カリキュラム評価と有名臨床研修病院の意味 〈林/磯部〉
第15回	12月前半	月 日 ( ) : ~ :	LM3 職場学習と変革マネジメント 〈高尾/磯部/木村峻/山田/島袋〉
第16回	12月後半	月 日 ( ) : ~ :	CD8 地域基盤型医学教育—理論と実践 〈高村〉
第17回	1月前半	月 日 ( ) : ~ :	OT3 歴史上の医師と対話する 〈森下/錦織〉
第18回	1月後半	月 日 ( ) : ~ :	GE4 Faculty Development 〈磯部/木村武〉
第19回	2月前半	月 日 ( ) : ~ :	PH4 人生と時間と学び—生涯教育とHolistic教育 〈種村/木村武〉
第20回	2月後半	月 日 ( ) : ~ :	PH3 ジェダイの哲学とアンプロフェッショナルな行動への対応 〈錦織〉



3月9日 (木)

8:30~12:45 | **A4** 合否判定基準と再試験の在り方 〈斎藤／宮地純／松山〉  
(昼食)

14:00~18:15 | **A5** 評価者トレーニングとルーブリック 〈斎藤／宮地純／松山〉

3月10日 (金)

8:30~12:45 | **TL7** シネメデュケーション—映像の持つ力とその教育への応用 〈染谷／森下／錦織〉  
(昼食)

14:00~18:15 | **CD3** インストラクショナル・デザインで斬る 〈鈴木克／木村武／錦織〉

3月11日 (土)

8:30~12:45 | **TL8** PBL—理論的美しさと日本での実質的破綻 〈清水／篠崎／種村〉  
(昼食)

14:00~18:15 | **GE6** 修了時プレゼンテーション (1) 〈木村武／種村／錦織〉



3月12日 (日)

8:30~12:45 | **GE6** 修了時プレゼンテーション (2) 〈木村武／種村／錦織〉

13:00~14:00 | 修了式

- |     |   |
|-----|---|
| 6月  | 他者貢献感と共同体感覚—アドラー心理学の教え（錦織）                    |
| 8月  | シネメデュケーション番外編<br>—シネマナイトの体験からナラティブの語りへ（染谷/森下） |
| 10月 | 多職種連携教育—心地よい連携とは何か？（春田）                       |
| 12月 | オンライン外科教育（高見/磯部）                              |
| 2月  | データは医学教育をどのように変えうるか（教学IR入門）（山田剛史）             |

## 研究会

※2021年度参考例

- |     |   |
|-----|---|
| 5月  | 医師・医学生のための人類学・社会学（飯田/錦織）                          |
| 7月  | 卒業時の医学生が想起すべき鑑別疾患候補リスト（宮地由佳）                      |
| 9月  | 医学教育の「死の谷」を渡る ～医学教育学研究における尺度開発とは？～（清水）            |
| 11月 | 量的研究から質的研究、そして混合研究への道（松山）                         |
| 1月  | ワークショップが医学教育研究になるまで<br>—アクションリサーチによる症例検討開発研究（宮地純） |



## スタッフ紹介

- 現在の所属
- 卒業大学 卒年
- 専門診療科・専門領域
- ふくみんへの参加動機・期待することなど



### 木村 武司 (きむら たけし)

京都大学大学院医学研究科  
京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター  
特定病院助教  
福島県立医科大学医学部 平成19年  
総合内科・小児科



FCME 3期生です。医学教育の分野の駆け出しですが、みなさんと一緒に深く学んでいきたいと思っています。FCMEについて何かわからない事があれば、気軽に聞いてください。どうぞよろしくお祈いします。

### 小西 靖彦 (こにし やすひこ)

京都大学大学院医学研究科  
医学教育・国際化推進センター (名誉教授)  
京都大学医学部 昭和57年  
外科 (肝胆移植外科)



現場の医師が、医学教育について現場感覚で学べることに期待しています！

### 谷 昇子 (たに しょうこ)

京都大学大学院医学研究科  
医学教育・国際化推進センター (特定研究員)  
流通科学大学 経済情報学科  
医療情報学



文系出身ですが、皆様がふくみんのプログラムを安心して受講できるよう、IT関連のサポートに尽力して参りますので、どうぞよろしくお祈いいたします。

### 錦織 宏 (にしごり ひろし)

京都大学大学院医学研究科  
医学教育・国際化推進センター (特命教授)  
名古屋大学総合医学教育センター (教授)  
名古屋大学医学部 平成10年  
医学教育学・総合診療医学



内科医/総合診療科医であり、また医学教育学(社会医学の一分野)の研究者です。ふくみんも8年目に入りました。医学教育学という分野を通して、人間の行動や思考、生き方などについてより深く考える事ができるようになり、この学問に出会えたことに感謝しています。皆様との対話を楽しみにしております。

### 山本 憲 (やまもと あきら)

京都大学大学院医学研究科  
医学教育・国際化推進センター(講師)  
京都大学医学部 平成7年  
放射線診断科



ふくみん1期卒業生です！

### 種村 文孝 (たねむら ふみたか)

京都大学大学院医学研究科  
医学教育・国際化推進センター (助教)  
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程中途退学  
生涯教育学



生涯教育学の観点から、専門職の学びや専門職と市民の協働などをテーマに研究してきました。医師が頼られ、人々が安心して医療と向き合える社会となるように、一般人の感覚も持ちながら医学教育を考えていけたらと思っています。

### 森下 真理子 (もりした まりこ)

京都大学大学院医学研究科  
医学教育・国際化推進センター研究員  
京都府立医科大学 平成16年  
家庭医療



博士課程で、人文社会科学の知見から見えてくる医学・医療の新しい(あるいは古い)姿を探る楽しい日々を送っています。FCMEで皆様と一緒に学べることを楽しみにしています。よろしくお祈いいたします。

## 及川 沙耶佳 (おいかわ さやか)



福島県立医科大学  
医療人育成・支援センター 助教  
旭川医科大学医学部 平成18年  
救急科・医学教育学

ふくみんでは、受講生の皆さんのディスカッションから多くの気づきをもらい、とても楽しく参加しています。シミュレーションのセッションでは頭だけではなく、体も動かしながら受講生の皆さんとともに、多くの学びを作り上げることができればと思います。

## 宮地 純一郎 (みやち じゅんいちろう)



京都大学医学研究科医学教育・国際化推進センター(研究協力員)  
北海道家庭医療学センター/浅井東診療所/  
名古屋大学大学院医学系研究科(博士後期課程)

大阪大学医学部 平成17年

家庭医療学・医学教育学・医療人類学

滋賀県長浜市の山間部診療所で家庭医として働きつつ、北海道の診療所指導医養成プログラムを運営しています。医学教育学では、(医療人類学をはじめとした)社会科学の教育、郡部医師のアイデンティティ形成、臨床推論の研究をしています。主に文化人類学および評価のコンテンツを担当しています。どうぞよろしく申し上げます。

## 柴原 真知子 (しばはら まちこ)



京都大学大学院医学研究科  
医学教育・国際化推進センター (非常勤講師)  
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程中途退学  
生涯教育学

現場にいらっしゃる先生方と一緒に、教育について議論できるのをとても楽しみにしています。  
ぜひいろいろと勉強させてください！

## 宮地 由佳 (みやち ゆか)



京都大学大学院医学研究科  
医学教育・国際化推進センター (非常勤講師)  
新潟大学医学部 平成19年  
家庭医療・医療教育学

皆様と一緒により深く、より広く学ばせて頂けるのを楽しみにしています！

## 飯田 淳子 (いいだ じゅんこ)



川崎医療福祉大学医療福祉学部/研究科  
医療福祉学科 (教授)  
総合研究大学院大学文化科学研究科  
文化人類学・医療人類学

文化人類学が組み込まれていることは、医学教育学プログラムとしてFCMEのユニークな点の一つです。これまで受講生の皆さんとの対話を通じ、「他者(異文化)理解の学問」である文化人類学が医学教育学と協働できることは少なくないことがわかってきました。皆さんとのさらなる対話により、新たな学びを体験できることを楽しみにしています。

## 高尾 義明 (たかお よしあき)



東京都立大学大学院経営学研究科 (教授)  
京都大学教育学部教育社会学科  
京都大学大学院経済学研究科博士後期課程  
経営学 (経営組織論・組織行動論)

経営学はみなさんにとってあまりなじみがないと思いますが、医療機関の中で教育・研究を実際に進めていくために有益な知識源になりうると思います。  
みなさんとのインタラクティブな授業を楽しみにしています。

## 伊藤 泰信 (いとう やすのぶ)



北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) (教授)  
九州大学大学院比較文化研究科博士課程  
文化人類学・知識人類学・医療エスノグラフィ

自分たちの“当たり前”の発想から自由になること・抜け出すことは、なかなか容易ではありません。文化人類学的な視点、エスノグラフィという方法論はそれを解きほぐす(“リフレーミング”する)のに優れています。  
それぞれ違った視点を持つ皆さんと学び合えることを楽しみにしています。

## 茂木 恒俊 (もぎ つねとし)



福岡記念病院 総合診療科 部長  
山梨医科大学医学部 平成15年  
家庭医療

京都大学大学院医学研究科の医学教育学博士課程に所属している間に、あっという間にFCMEコースの渦中に入っていました。  
今までの学びをシェアし、みなさんとの新しい学びに期待しています！  
よろしくお願ひいたします。

## 梶田 将司 (かじた しょうじ)



京都大学情報環境機構IT 企画室  
学術情報メディアセンター (教授)  
名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻  
博士課程後期課程  
平成7年単位修得退学

大学における教育・学習のための情報環境を創ってます。  
教育の本質は、教員と学生のインタラクションで、ICTを  
通じてどう支援するかを研究開発しています。PandAを通  
じてその成果の一部をご体験頂ければ幸いです。

## 斎藤 有吾 (さいとう ゆうご)



新潟大学経営戦略本部教育戦略統括室 (准教授)  
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了  
京都大学博士 (教育学) 平成30年  
教育評価論・高等教育論

京大の高等教育研究開発推進センター出身で、現在はコメ  
ディカルを養成する単科大学に勤めております。  
そこで統計学・情報学の授業を担当しながら、医療系学生  
たちの資質や能力はどうやったら評価できるのか、を他の  
教職員と協働で探究しております。  
医学に関しては本当に素人ですが、一緒に議論させていた  
だきながら、共に学べることを楽しみにしております。

## 鈴木 克明 (すずき かつあき)



熊本大学教授システム学センター (センター長)  
大学院教授システム学専攻 (専攻長・教授)  
米国フロリダ州立大学大学院教育学研究科  
博士後期課程  
昭和62年Ph.D (InstructionalSystem)  
教育工学

本プログラムの思想「難しいことを簡単に伝える (決して、  
簡単なことを難しくしない)」を旨として率直にわかりやす  
くお答えするように最善を尽くしますので、答え甲斐のあ  
る問を持ち込んでください。IDの思想を「過度に」押し付  
けますので、全力で抵抗してください。

## 松下 佳代 (まつした かよ)



京都大学高等教育研究開発推進センター・教授  
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程学修認定退学  
教育方法学・大学教育学

京大の高等教育研究開発推進センターからの助っ人です。  
学生時代は、熱気球のサークルに入っていました。今でも、  
仕事で疲れたら、窓からぼっと空を見るのが好きです。  
これまで主に歯学教育や理学療法学教育の分野で共同研究  
をしてきました。医学教育のプログラムはこのFCMEに参  
加しながら、学ばせてもらっています。

## 鈴木 富雄 (すずき とみお)



大阪医科薬科大学 地域総合医療科学寄付講座 (特任教授)  
大阪医科薬科大学医学部附属病院総合診療科 (科長)  
名古屋大学医学部 平成3年  
医学教育学・総合診療医学

卒業以来ジェネラルな診療と教育に一貫して関わってまい  
りました。このプログラムで皆さんと共に学べることを楽  
しみしています。

## 松山 泰 (まつやま やすし)



自治医科大学医学教育センター (准教授)  
自治医科大学医学部 平成13年  
地域医療学・医学教育学

自治医大卒業後、へき地診療を経て、現在は母校の後輩育  
成に奮闘している毎日です。総合判定試験の運営や学生評  
価全般の改善に取り組んでいます。よろしくお願ひします。

## 菊川 誠 (きくかわ まこと)



九州大学大学院医学研究院医学教育学部門 (准教授)  
鹿児島大学 平成9年  
医学教育学

参加者の皆さんと医学教育について語ることに、また医学教  
育研究についての議論を楽しみにしております。

## 清水 郁夫 (しみず いくお)



信州大学医学部医学教育研修センター (助教)  
信州大学医学部 平成16年  
内科学・医学教育学

内科臨床医が教育に興味を持って、現在は医学部のカリ  
キュラム改革などに関わっております。FCMEの場で皆様  
と議論できることを楽しみにしております。一緒に学びま  
しょう。

## 鉄原 健一 (てつはら けんいち)

福岡市立こども病院／集中治療科  
山口大学 平成20年  
小児救急



FCME 3期生です！  
FCMEに参加して、見える世界が変わりました！

## 植野 司 (うえの つかさ)

京都大学医学部附属病院  
総合臨床教育・研修センター／精神科神経科  
岐阜大学 平成16年  
精神医学



多様な認知スタイルを持つ人と関わる機会のある精神科診療が楽しく、こうした個性を生かせるような関わり・サポートに関心を持って来ました。教育に関わる機会を得て、みなさんと一緒に教育について構造的に考える機会にしていきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します！

## 島袋 彰 (しまぶくろ あきら)

ハーバード公衆衛生大学院／日本医療政策機構  
公衆衛生学修士課程  
自治医科大学 平成19年  
総合診療科



教育者としての思いと研修医教育の現場のギャップが大きくなり、どこか行き詰まりを感じたことがきっかけでした。現場で奮闘する指導医が研修医と一緒に学んでいくことについて真摯に向き合う「場」と「時間」となることを祈願しています。

## 田中 淳一 (たなか じゅんいち)

東北大学病院 総合地域医療教育支援部  
新潟大学 平成16年  
総合診療科・内科・呼吸器内科



FCMEの1期生です。2期以降、講師側として参加させていただいています。まだまだ学ぶことが多く、皆様と一緒に楽しんで学ばせていただければと思います。

## 林 幹雄 (はやし みきお)

東京大学大学院 医学系研究科  
医学教育国際研究センター  
医学教育学部門 大学院生  
川崎医科大学 平成18年  
総合内科・家庭医療



FCME 1期生です。学べば学ぶほど奥の深い分野ですが、皆様の教育実践を通じて一緒に学ばせて頂くのを楽しみにしています。

## 木村 峻輔 (きむら しゅんすけ)

町田市民病院循環器内科  
京都大学医学研究科 医学教育・国際化推進センター (研究協力員)  
大阪大学医学部 平成27年  
京都大学大学院医学研究科医学専攻博士課程 令和4年単位取得退学  
医学教育学 (予定)・循環器内科 (予定)



ふくみんの長く厳しい旅と一緒に乗り越えて行きましょう！

## 染谷 真紀 (そめや まき)

京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター助教  
名古屋大学大学院医学系研究科総合医学教育学 博士課程  
筑波大学 平成21年  
小児救急・集中治療



小児科のワークショップなどを通して医学教育に興味を持ち、4期生として受講しました。人材育成・シミュレーションなどに特に興味を持っています。ともに学ばせていただきたいと思っています。よろしくお祈りします。

## 佐野 樹 (さの いつき)

三重県立こころの医療センター 診療科 医長  
京都大学大学院医学研究科医学教育・国際化推進センター  
研究協力員  
名古屋大学医学部医学科 総合医学教育学 研究生  
札幌医科大学 平成17年  
精神科・多職種連携教育、精神医学、心理学



普段は、三重県津市の公立精神科病院で精神科医・精神保健指定医として働きつつ、京都大学・名古屋大学で精神科医のイメージや多職種連携における笑い・ユーモアの研究をしています。今回は、微力ながらカリキュラムの一部を担当します。どうぞ、よろしくお祈りします。

## 磯部 真倫 (いそべ まさのり)

新潟大学医歯学総合病院 産科婦人科 助教  
名古屋大学 大学院医学系研究科 総合医学教育学  
博士課程  
山形大学 平成14年  
産科婦人科、腹腔鏡手術



FCME4期生です。1年間のプログラムの中で医学教育学の魅力にひかれ、大学院博士課程に進学しています。医学教育学をより簡単に、より楽しく伝えることを得意としております。FCMEスタッフの中で数少ない外科系医師としても貢献できればと思います。

## 高村 昭輝 (たかむら あきてる)

金沢医科大学 医学教育学講座  
富山医科薬科大学 平成10年  
小児科・総合診療科



いろいろな価値観を持った皆さんとの出会いを期待しています。

## 篠崎 和美 (しのざき かずみ)

東京女子医科大学眼科  
東京女子医科大学 昭和62年  
眼科



プログラムの中の次の5つのキーワードをみて一筋の光が差し込むような感じがしました。現場で働く指導医、武士道、プロフェッショナリズム、アイデンティティ形成、多職種連携教育。このプログラムで、ぜひ、学び、追求し、光を掴みたいと思い参加しました。様々な年代、様々な施設、様々な分野の先生方と純粋に後輩の指導について語り合えるこの場を大切にしたいと思います。

## 山田 圭 (やまだ けい)

久留米大学医学部 医学教育研究センター・整形外科  
久留米大学医学部 平成4年  
整形外科・脊椎外科



FCME4期生です。FCMEで学べたことは、医学教育に携わってきた中で大きな転換点となりました。異なる背景を持つメンバー同士で予想外の化学反応と一緒に体験し学んで行けることを非常に楽しみにしています。

## 高見 秀樹 (たかみ ひでき)

名古屋大学医学部附属病院 消化器外科2病院講師  
卒後臨床研修キャリア形成支援センター  
名古屋大学 平成15年  
消化器外科



医学教育を一から学びたい、と思ってふくみんへ参加しました。その結果本当にたくさんの事を学び、また、多くの仲間を得ることができました。まだまだこのラーニングコミュニティを拡げていきたいと思っています！

## 春田 淳志 (はるた じゅんじ)

慶應義塾大学医学部 医学教育統轄センター  
旭川医科大学 平成16年  
総合診療



参加者の方から新たな視点やエネルギーを頂けることを楽しみにしております。

## 山田 剛史 (やまだ つよし)

関西大学教育推進部 教授  
神戸大学大学院 博士後期課程 平成17年  
高等教育開発 青年心理学



期待していることは、医療現場に携わりながら医学教育学を学ぼうという意思をお持ちの先生方とお会いできること、みなさんの想いや考えに触れることができること、医学教育という文脈から高等教育を見ることで新たな発見・気づきが得られることなどです。

## 梅村 絢美 (うめむら あやみ)

名古屋大学医学部附属病院  
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター  
首都大学東京大学院 平成25年  
文化人類学



医学教育に関わる先生方の視点や関心について興味があります！



## 笠原 くれは (かさらは くれは)

京都大学大学院医学研究科  
医学教育・国際化推進センター (事務補佐)



皆様の学びが充実するよう、サポートさせていただきます。  
メール中心のご連絡となりますが、よろしくお願いいたします。

## 第1期受講生



## 第2期受講生



## 第3期受講生



## 第4期受講生



## 第5期受講生



## 第6期受講生



## 第7期受講生



# 指導医のための 医学教育学

## 実践と科学の往復

錦織 宏・三好沙耶佳 編

A5 判並製・390 頁 定価：本体 3600 円（税別）  
ISBN 978-4-8140-0290-0



### ◆目次より

はじめに

#### 1 General (GE) 医学教育学総論

医学教育学とは？ ～医学教育を科学するという視点～  
教育実践を他人に見る形にすること／医学教育と医学教育学

#### 2 Teaching and Learning (TL) 教育と学習

どのように教えるのか？ ～教え方や学び方に関する理論・モデル・考え方～  
成人教育理論入門／小グループ学習におけるファシリテーションと空気を読むこと／ベッドサイドティーチングと実践共同体／シミュレーション教育ことはじめーデザイン／シミュレーション教育ことはじめーデブリーフィング／メンタリングと困った学生・研修医への対応／シネマドキュメンテーションー映像の持つ力とその教育への応用／Problem-based learningー美しい理論がなぜ実践で破綻したのか？

#### 3 Assessment (A) 学習者評価

どのように評価するのか？ ～試験も含めた学習者評価の方法に関する理論・モデル・考え方～  
キャラに合わせたフィードバックと承認欲求／ちゃんとした試験をすれば授業は要らない？／診療現場での問主観的な観察評価 “できる” かどうかを知るーポートフォリオを題材に／ルーブリックによる評価

#### 4 Curriculum Development (CD) カリキュラム開発

どのようにカリキュラムを作るのか？ ～カリキュラム開発に関する理論・モデル・考え方～  
カリキュラムを作る・壊すー自由な学びの場を構築する／カリキュラム評価と有名臨床研修病院の意味／インストラクショナル・デザインと構造化の功罪／Entrustable Professional Activityー“信頼して任せられる” とは何か？

#### 5 Leadership and Management (LM) リーダーシップ・マネジメント

どのようにリーダーシップをとっていくか？ ～組織をまとめる際に知っておくべきこと～  
変革プロセスとマネジメント・リーダーシップ／経験学習とリーダーシップ開発

#### 6 Information Technology (IT) 情報工学

IT を使った教育をどのように展開するのか？ ～オンライン教育の活用例やその歴史～  
IT を使った学びのさまざま／Learning Management System のいろは／新型コロナウイルス感染症による医学教育の変化

#### 7 Philosophy (PH) 教育哲学

医師はなぜ教育に関わるのか？ ～なぜを問い続けること～  
医学教育における省察と構成主義ー唯一解のない世界へようこそ／武士道プロフェッショナリズムとジェダイの哲学／現象学の医学教育学における可能性

#### 8 Cultural Anthropology (CA) 文化人類学

なぜ自分の施設ではうまくいく／いかないのか？ ～文化的社会的文脈を考えること～  
医学教育の文化的社会的文脈／幼児教育から学ぶ／パーソナルスタイリストから学ぶ

#### 9 General (GE) 医学教育学総論

ふたたび医学教育学とは？ ～医学教育に関連する組織や、指導医養成について～  
日本の医学教育関連組織ーどこで誰が何を決めているのか？／Faculty Developmentーどうせやるなら “楽しく” 教えよう

#### 10 Research (RE) 医学教育研究

医学教育学分野における研究とは？ ～巨人の肩の上に立って知見を積む～  
医学教育を科学するー社会医学としての医学教育学とその研究

ふくみん受講生たちが考えたこと

おわりに



京都大学大学院医学研究科履修証明プログラム  
FCME (Foundation Course for Medical Education)  
参加体験&Web討議混合型プログラム

現場で働く指導医のための 医学教育学プログラム—基礎編

■授業科目 (予定)

- カリキュラム開発 (例: カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場の構築)
- 教育哲学 (例: 医学教育における省察と構成主義—唯一解のない世界へようこそ)
- 学習者評価 (例: 診療現場での間主観的な評価—責任ある主観とポートフォリオ)
- 教育と学習 (例: シミュレーション教育ことはじめ—デザインを考える)
- リーダーシップとマネジメント (例: 職場学習と変革マネジメント)

■受講形態

年3回の参加体験型授業 (1回4日間。2023年4月、9月10月、2024年3月の木・金・土・日を予定) と、月に2回のWeb討論型授業 (1回2時間、時間は要相談) による1年間のプログラムです。

■本プログラムの受講要件

- 原則として卒業後6年以上の指導経験のある医師
  - 患者さんはもとより、医学生・研修医、また他の医療職に対しても愛情を持って接していること
  - 利他的な行為としての教育に関心を持っていること
  - 本プログラム自体の構築・開発に協働して参加する意思のあること
  - 年3回の参加体験型授業に出席するため、下記の予定を確保できる方
    - ・採用年度の4月・9月・10月・3月のそれぞれ4日間 (原則として全日程の出席を求めます)
- ※ オンラインでの実施となる場合もあります。

■受講費用

約30万円 (予定)

■修了要件

1. Web討論型授業と参加体験型授業を合わせて1年間で120時間以上履修すること。
2. 各科目での評価で合格すること (可否判定はレポートの内容・討論での発言の質および量・自身の教育活動の映像分析内容などで行う予定です)。

修了者には京都大学から正式な履修修了証が授与されます (学位は取得できません)。

■応募方法

- 定員 10名程

- 2023年度受講生 募集期間  
2022年10月~11月頃の予定

●選考方法

出願書類 (必要に応じて面接) による選考を行います。

●出願書類 (書式をダウンロードできます)

下記5点を京都大学医学教育・国際化推進センターまで郵送ください。(封筒には「FCME応募」と朱書きすること) 書き方については「出願書類について」をご参照ください。

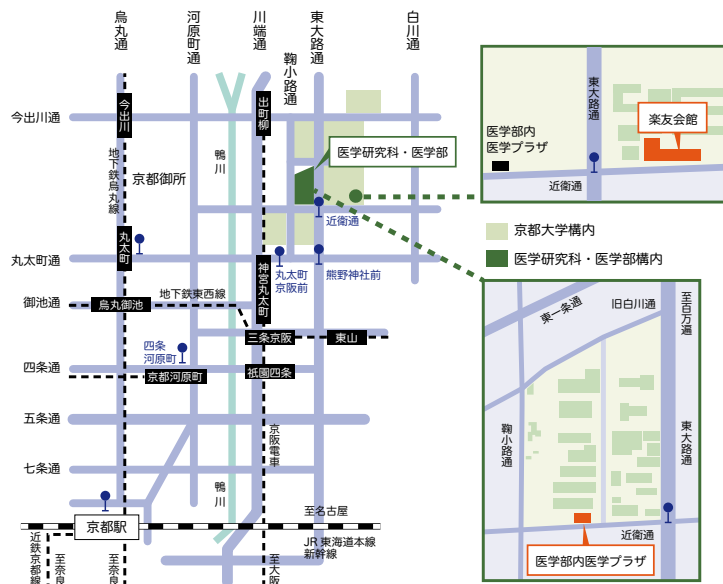
- ・履歴書
- ・出願許可証 (受講同意書)
- ・推薦状
- ・志望動機と修了後の展望
- ・医学教育に関する実践記録

FCMEウェブサイト <http://cme.med.kyoto-u.ac.jp/fcme/>  
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町  
京都大学大学院医学研究科 医学教育・国際化推進センター



# 京都大学

KYOTO UNIVERSITY



● お問い合わせ

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

京都大学大学院医学研究科 医学教育・国際化推進センター

メールアドレス 060edu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

電話番号 075-753-9338